

OB 通信

鳳 翩

復刊 22 号
=2018 年 8 月=



山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
鳳翩会

もくじ

1 会長挨拶	鳳翔会会長 古谷 眞之助	3
2 2018年度総会(東京)開催のご案内	東京支部長 城戸 賢嗣	4
3 支部活動報告		
① 山口支部	山口支部長 古谷 眞之助	5
② 九州支部	九州支部長 龍 純二	7
③ 関西支部	関西支部長 池田 純	9
④ 東京支部	事務局長 秋山 高弘	10
4 同期会報告	S53卒 秋山 高弘	11
5 会員エッセイ		
① 「小豆島八十八か所霊場歩き遍路 150Km 日記」	東京支部 S47 文理卒 恵谷 浩	12
② 「定年後夫との距離感、家事分担を試行錯誤」	九州支部 S60 農卒 池田 徳子	14
③ 「ボランティア活動、そして息抜きはビートルズ」	山口支部 S49 教卒 石川 忠	15
④ 「” 生命の鍵 ” の旅」	九州支部 S41 文理卒 加藤 征治	16
6 現役報告		
① 執行部活動報告	人文学部 3年 三井 大明	18
② 春合宿報告	理学部 2年 三和 大地	18
③ H30年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画	人文学部 3年 三井 大明	19
7 事務局長挨拶	経済学部 4年 岡田 陽介	20
8 OBの皆さまへのお願い		20
9 部・支部役員連絡先		22



鳳翔会のホームページをご覧になったことがありますか？

<http://houben-kai.sakura.ne.jp/>

上記がアドレスです。残念ながら、ヤフーで検索しても出てきません。ここでは、OB 通信はもとより、創刊号からの過去の部誌、会員の近況などが掲載されています。是非、ご覧いただき、ご活用いただき、また、何らかの書き込みをしていただければ、と思います。

【 お断り 投稿いただいた原稿は、編集の都合上、文字、レイアウト等変更した部分があります。ご了承下さい 】

【 表紙イラスト 象頭山から東鳳翔山を望む by S.Furutani 】

1. 会長挨拶

残暑お見舞い申し上げます。会員の皆さまにおかれましては益々ご清栄のことと、お慶び申し上げます。また、常日頃の鳳翔会の運営に対する温かいご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。今年7月には西日本で深刻な災害が発生しました。さらに、その後続いた酷暑は近年稀に見るもので、これらは地球温暖化に伴う異常気象の所為ではないかと思っています。万一会員の皆さま、あるいはそのご家族に被災された方がおられましたら、心よりお見舞い申し上げます。

さて、地元山口県では、明治維新 150 年を迎えて様々な催しが行われておりますが、我らが山口大学ワグナーフォーゲル部も、そろそろ創部 60 周年の新たな節目が目前に迫ってきました。7 年前、秋吉台に集って 50 周年の記念式典を行ったことが、つい昨日のように思い出されます。山口大学各運動部の OB 会情報には疎いのですが、当会は、恐らくその中でも長い伝統と多くの会員を持つ会の一つであることは間違いないでしょう。そんな当会の目的として掲げられている「会員相互の親睦を図ること」「部の発展に寄与すること」の 2 点について改めて考えてみたいと思います。

まず、後者については、現在現役部員数も安定してきており、毎年装備購入費援助、海浜合宿支援を行い、かつ、事務局長の総会参加費を負担してきています。また、前者については、最近目立ってきた「同期会」の活動に注目しています。還暦など、何らかの機会を契機として同期が集まり、久闊を叙していただくとともに、未加入の同期に入会を勧誘する活動をさらに展開していただければと考えています。また、以前から勧めてきた同期世話人については、卒年が昭和期までは充実しているものの、平成期では卒業後 10 年までの 7 名に就任いただいているのみです。つきましては、今年度総会に参加いただける「若手」の皆さんには、私が会場で直接就任をお願いしてみようと考えています。

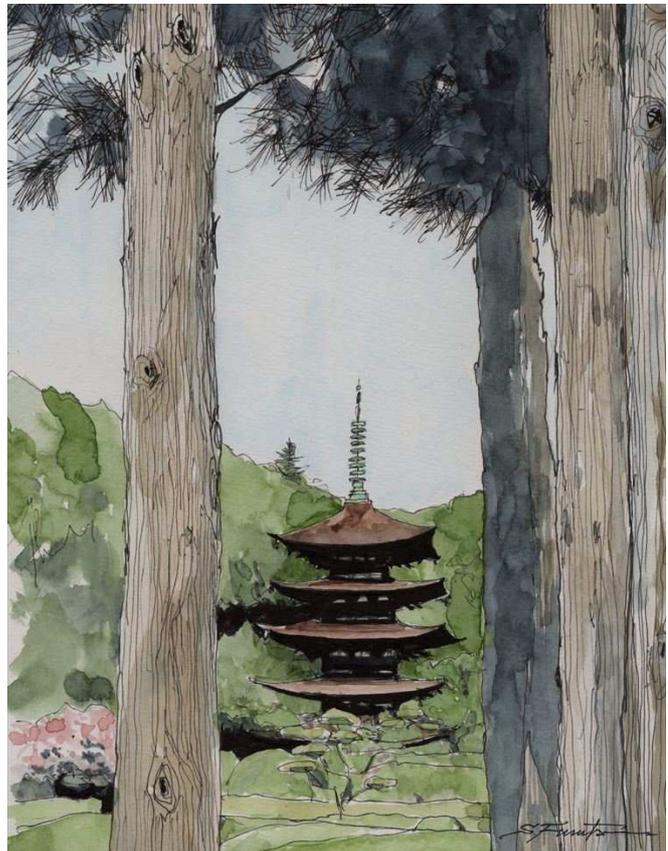
もう一つ、これは皆さんへの提案なのですが、是非鳳翔会のホームページの活性化にご協力をお願いしたいということです。かくいう私自身が今まで投稿や書き込みをしたことがなかったのですが、6 月に初めて自分の山行レポートを「山行・旅行記録」に掲載していただきました。是非一度ご覧下さい。そして皆さんも最近の山行やその他の活動について積極的にレポートしていただければと思います。また「掲示版」は、もっと有効活用が可能です。例えば、同期会への呼び掛け、山行同伴者募集などはすぐに思いつくことです。しかし、鳳翔会ホームページは、「誰もが見ないから書かない、誰もが書かないから記事も更新されず、結局誰も見ない」という悪循環に陥っているようにも思います。今後は私自ら、書き込んでいくつもりですし、皆さんも積極的に投稿や書き込みをお願い致します。

ホームページには OB 総会の模様、OB 通信、過去の部誌などが掲載されています。もし、会員の皆さんすべてにホームページを確実に見ていただけるとすれば、OB 通信の印刷代、発送費など、多額の経費が削減できます。OB 通信の写真が不鮮明とのご批判があり、2016 年から外部印刷に出していますが、そのために単年度赤字が続いています。これの解消のための対策は打ってはおりますが、今後の健全財政を考えれば、OB 通信を郵送するのはパソコンで見ることのできる環境にない方のみ限定する、という方式も今後考えて行かねばならないと思っています。いずれ、しっかりした方向性を打ち出すつもりですので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

では、今秋、東京の総会でお会いしましょう。

2018 年 8 月 鳳翔会会長

古谷 眞之助



2. 2018年度総会(東京)開催のご案内

東京支部長 城戸 賢爾

拝啓 盛夏の候 OB 会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年総会での予告通り、2018年度のOB総会は東京支部の担当で開催します。東京支部では過去に、筑波山、高尾山、大山を舞台に総会を開催して参りましたが、今回は都心で開催させていただくこととしました。東京を楽しんでいただくエンジョイプランをご用意しております。今回の総会に加え、美術館めぐりや観劇など組み合わせさせてみてはいかがでしょうか。皆様には奮ってご参加の程お願い申し上げます。

敬具

※出欠連絡 同封のはがきを9月20日(木)までにお出し下さい。

記

- 開催日時 **2018年10月20日(土)～21日(日)**
受付開始 15時 総会 17時～18時 懇親会 18時～20時 (二次会～21時)
- 開催場所 「ホテルアジア会館」
(総会・懇親会・宿泊) 東京都港区赤坂8-10-32 TEL03-3402-6111
- 参加費 @17,000円 (ホテル一泊朝食付き+懇親会費含む)
*宿泊は禁煙3人部屋の利用 (ご夫婦の場合はツインルーム)
*宿泊なしの場合@9,000円
*宿泊については、10月10日以降キャンセル料が発生しますので、
変更の際は、速やかにご連絡ください。
- 当日のスケジュール
受付開始 15時～
総会 17時～ (終了後写真撮影)
懇親会 18時～ ホテル内レストラン「うれしの」
【ご案内】レストランの了承を得ましたので、**お酒の持込も可**とします。
好きなお酒、皆さんに飲ませたいお酒がありましたら自由にお持ち下さい。
二次会 20時～21時終了
中締め後、希望者で引き続き簡単な二次会を行います。
外出するなり、お部屋で飲むのもご自由にどうぞ。
- エンジョイプラン 10月20日(土)
Aプラン 皇居一般参観
宮内庁の都合で取り止めの場合には、皇居周辺ウォーキングに切り替えます。
当日は本人確認の為、免許証・健康保険証等の身分証をお持ちください。
JR東京駅丸の内北口改札 集合12:30 その後皇居桔梗門へ歩いて移動
(丸の内出口を出て振り返り、レンガ建ての建物の向かって左側ドーム)
参観開始 13:30 (参観時間 1時間半) ホテル着 16時頃

Bプラン 東京タワーと愛宕山
(東京タワーと東京23区最高峰?愛宕山に歩いて登ります)
ホテルロビー集合13:00 昼食を済ませてお集まりください
(荷物はお預かり可能です。東京タワー展望デッキ入場料900円)
ホテル⇒乃木神社⇒愛宕山⇒東京タワー⇒ホテル帰着 16時頃

エンジョイプラン 10月21日(日)

Cプラン 隅田川クルーズと浅草

ホテルロビー集合 9:00 朝食・チェックアウトを済ませお集まり下さい

ホテル⇒夕留⇒浜離宮公園散策⇒隅田川クルーズ(740円)にて浅草

浅草(雷門到着後解散11:30頃=解散後、各自浅草を散策ください)

6. 連絡先

東京支部長 城戸賢嗣

東京事務局長 秋山高弘

7. 参考

ホテルアジア会館

東京都港区赤坂8-10-32 TEL03-3402-6111

<http://www.asiacenter.or.jp>

青山一丁目・乃木坂駅から徒歩5分 (詳しくはHPご参照)

アクセス (おおよその所要時間)

羽田空港	モノレール-浜松町=大江戸線大門	一青山一丁目	60分
東京駅	JR山手線-新橋-銀座線青山一丁目		25分
品川駅	JR山手線-新橋-銀座線青山一丁目		25分

以上

3. 支部活動

(1) 山口支部活動報告

山口支部長 古谷 眞之助

今年度に入ってから山口支部の活動は以下のようになっています。

① 2018.1.10 小林照明さん(S51工学部資源工学科卒)特別講演会参加

小林さんは、卒業後、石油資源開発株式会社に勤務。油田開発のため世界中を回られ、その後、海洋研究開発機構/地球深部探査センターに出向し、現在も地球深部探査船「ちきゅう」を使用した地球最深部の科学掘削に携わっておられます。山口大学の特別講義「知の広場」講義に合わせて、我々OBのために特別に講演会の入場を許可していただいたのですが、開催日が平日だったこともあって、参加者は、山口支部より5名、古谷友人5名の10名の皆さんでした。講演会場は、教養部第一教室、演題は『「ちきゅう」の挑戦～未到の深部へ～』というものでした。全く未知の世界で非常に興味深いものでした。夕刻には、田中前副会長に私ども夫婦を加えた4名で懇親会を行い、銘酒「東洋美人」を心置きなく飲んだのでした。

【写真上 演壇で熱弁中の小林さん】

【写真下 講演終了後、参加者で記念撮影】



② 2018.2.10 追いコン参加&支部交流会

湯田温泉「お花茶屋」で恒例の卒部式参加及び山口支部交流会を行いました。昨年は期末月であったためかOBの参加は5名と低調でしたが、今年は8名となりました。いつものように別室で、一足早く、まずは支部交流会です。近況報告、役員会の日程調整、二日後の会計監査の事前打ち合わせなどをしながら盃を重ねているところに卒部式幹事から連絡が入り、追いコン卒部式会場へと移動しました。まずは会長の私から祝辞を述べ、「五橋」「長門峡」のお酒の差入れ、続いて出席OBが交代で卒部生に花束とOB会入会資料を手渡しました。現在、部員は41名+院生その他8名で、1回生(男7女4)2回生(男9女1)3回生(男9)4回生(男11)とのことで、大変な大所帯です。会場には県立大学生も含めて約40名が参加していました。卒部生11名のうち、今年の出席者は8名でした。まだ板にはついていませんでしたが、卒部生は学生服ではなく全員スーツにネクタイという正装でした。彼らの今後の活躍を祈りたいと思います。



③ 2018.5.26 春のイベント 火の山・霊鷲山(りょうじゅせん)ハイキング

支部恒例の春秋のイベントですが、今年の春はイベントを企画していただいた石川さん(S49教)の地元、関門海峡を見下ろす「火の山から霊鷲山までのハイキングを行いました。火の山山頂まではロープウェイ利用というのがOBらしいですが、そこからは関門海峡を守る砲台のあった霊鷲山まで尾根歩きとなります。参加したのは、石川、古谷夫婦、徳田、平野の5名と少人数でしたが、海峡を見下ろしながらのハイキングは快適そのものでした。2時間余



りの山歩きを終えて、昼食は海峡を目の前に眺める萬珠荘でいただきました。昼食後には、今から150年前にこの海峡で勃発した「下関戦争」と奇兵隊について、古谷ガリパーポイントを使用して解説するというおまけつきでした。以上

(2)九州支部活動報告

九州支部長 龍 純二

1月27日(土) 新年会

出席者9名：永沼、秋山、武富、前原、山本、笹田、権藤、天野、龍

大名つつじ庵にて開催。今年の計画案を検討。日帰り山行6回、1泊山行1回、デイキャンプ1回、懇親会4回を予定。

2月24日(土) 日帰り山行：四王寺山(大城山410m、大原山354m、岩屋山281m)

参加者4名：永沼、武富、山本、龍

政庁跡付近の梅はちらほら。坂本の大石垣を通り土壘へ登り上がる。四王寺山の最高峰・大城山410mに登り、焼米ヶ原に戻って昼食。下山は岩屋山からの展望を楽しみ、高橋紹連の墓経由で政庁跡へ。帰りは山本さんの車で太宰府に行き、「お石茶屋」で梅か枝餅を食べ、「梅園」でおみやげを買い解散。



3月24日(土) 日帰り山行：発心山(698m)

参加者4名：永沼、秋山、武富、龍

西鉄久留米BCで草野行きバスを待つ。草野上町で下車、桜はまだ一分咲き位の発心公園経由、夏目漱石の句碑を見て登山道へ。行きは尾根コースで標高差600mに挑む。展望の良い頂上手前の草地に11:15到着。耳納スカイラインの車道がすぐ下に見える頂上で昼食。下りは横岩コースで下る予定が、入り口を通りすぎグライダー山まで歩く。沢沿いの横岩コースは荒れていて先輩方に大変難儀をさせてしまい反省。帰りのバスは一本遅くなり時間待ちで久留米つばき園を散策。



4月14日(土) 懇親会

出席者8名：永沼、中村、岩本、清家、山本、富田、天野、龍

大名つつじ庵にて。これまでの活動報告と今後の予定を確認する。久しぶりに中村さん、岩本さんの参加があり近況を報告し合う。



4月28日(土) 日帰り山行：雷山(955m)・井原山(983m)

参加者8名：永沼、秋山、前原、北原、山本、光山、池田、龍

1週間前、下見に来たときは車道脇に5台くらいの駐車だったが、今日は100台近くが駐車し大賑わいでびっくり。佐賀県側からの楽々コースで井原山から雷山へと縦走する。雷山への縦走路付近のコバノミツバツツジが丁度見ごろになっていてピンクのトンネルを抜けていく。今日は参加者8名の大人数で大変嬉しい。



5月19日(土)～20日(日) 一泊山行：霧立越

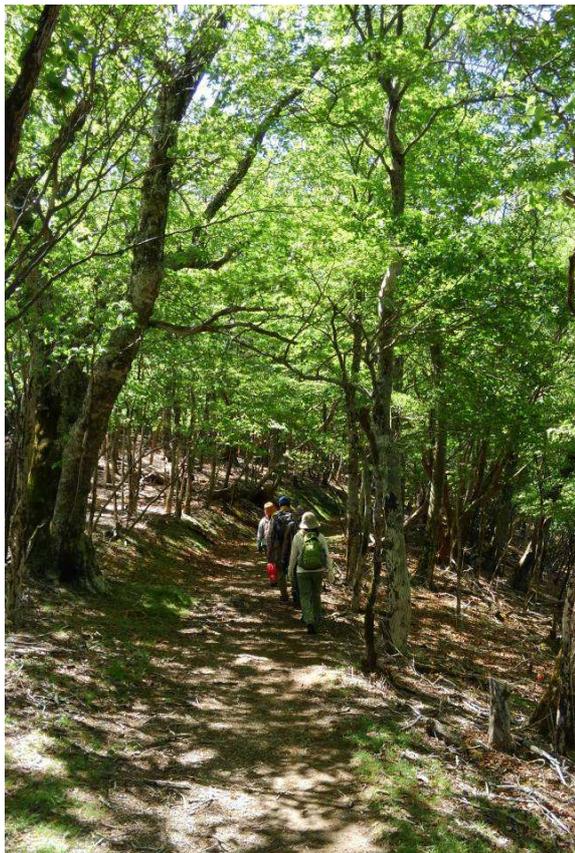
参加者：4名：永沼、秋山、桑江、龍

今年の1泊山行は、昨年台風で中止になった霧立越のリベンジである。高速バス「ごかせ号」を使って五ヶ瀬役場前まで行き、送迎バスで宿泊先「えのはの家」まで行く。6年前に泊まった時とほぼ変わらない様子。夜は囲炉裏端でやまめ料理を頂く。

翌日は空気が澄んで快晴になり、最高の登山日和となる。日本最南端にあるスキー場のグレンデ上部からトレッキングを開始する。阿蘇の山並み、九重、祖母傾の山々が一望でき最高の景色に皆喚声を上げる。向坂山を越え白岩山から水呑みの頭まで、霧立越といわれる、昔、馬の背で荷物を運んだ駄賃つけ道を歩く。木漏れ日の中、足元の両脇にはきれいな杉苔に水滴が光る。

トレッキングは半日コースで2時前には宿に着く。帰りの高速バスまで時間があるので、たまたま開催されていた伝統文化「神楽の祭典」を見に行く。

やまめの里のオーナー秋本さんが前日の夜の食事のときに挨拶に来られた。神楽保存会の会長をしていてこのイベントのため、トレッキングのガイドは代わりに奥様がされるとのこと。時間があれば神楽を見にきてくださいとのことであった。地元の中学校の体育館で開催されていた「神楽の祭典」では、国指定椎葉神楽保存会をはじめ各保存会からの神楽が奉納されていた。住民の方も多く見にこられていて、大賑わいであった。地元の鞍岡祇園神楽保存会の「舞開き」では天の岩屋から天照皇大神(稚児)を手力男命が、手を取ってお迎えする舞になっていて、可愛い天照皇大神だった。秋本さんは神楽でも太鼓を叩く役で出られていたようであった。



7月28日(土) 懇親会(暑気払い) 予定

(3) 関西支部活動報告

関西支部長 池田 純

関西支部2018年の活動状況をご報告します。

さて前年度の総会の疲れが充分取れない中、今年も活動を進めています。まずは新年会を兼ねた懇親会を1月26日に開催しました。場所はいつもの大阪梅田淀屋橋の焼肉小松屋さんで、10人ほど出席。この小松屋さんは関西支部の定例場所であれこれ14、5年利用させてもらってます。この中で今年度何を行うか決めました。まずは情報交換と、山にこだわらず何かをやろうと、日程も4月21日に決めております。

さてその当日4月21日ですがみんなの集まりやすい大阪周辺の山散策ということで六甲山を南北に横断する計画を立てました。

六甲山(六甲山系)は宝塚から三宮地区まで幅が広く高さも1000mにちょっと届かないため関西の方には大変親しまれている山系です。そのため散策コースはたくさんあるのですが、今回は、阪急芦屋川駅から有馬温泉へ抜ける最もおなじみのコースを選びました。集合時間は10:00のため少し早めに駅に到着したのですが、さすがに登山客であふれかえっていました。天気も曇一つないピーカンの天気で暑いぐらいで水分補給用のペットボトルも多めに用意しました。駅から滝までは名だたる芦屋の高級住宅街を抜けるひたすら上りの登山道に入ると、雰囲気はがらっとかわり高座の滝につきました。ここにはお茶屋さんがあり、一息入れる。いくつかコースあるのですがここからロックガーデンをとおり風吹き岩へと登ります。名前の通り表面が風化した花崗岩の岩場が階段状に連続しておりところどころ鎖場もありで、結構しんどいです。しかもたくさん人がいるのであまりゆっくりできない。風吹き岩に到着、遠くの方は少しかすんでいましたが展望は良いです。ここで六甲名物猪に出会いました。人に慣れているのか近寄っても逃げません。ふもとの看板に注意書きがあり、ちょっかいを出すと荷物とか取られるそうです。ここは静観と決め込む。なぜかまるまるとした猫もいました。



家族づれの中にはここを目的地として帰られるかたもいました。少し休んで出発。ここからは普通の山道です。ところどころきれいなピンクの花が咲いており、堺原さんいわくミツバツツジということで確かに花の間からのそいている枝先には葉が三枚出ていました。途中雨が峠でコンビニ弁当の昼食。周りには何組か同じように昼食を取るグループがいました。せっかく高度を稼いだのですがここから一旦下ります。途中本庄橋あとを通過。今はありませんが現場に掲示している写真によれば

【高座の滝にて ちょっとわかりにくい、風吹き岩にて大きないのしし】 自然石の立派な橋があったようです。このあたりからまた登りになります。頂上がちらちら見えますがまだまだ遠い。つづら折りの坂道をひたすら上ると一見茶屋に到着。ここにはアスファルト舗装された車道が来ており、車で来られた方や自転車の方もいます。せっかくですからここから六甲山山頂(931m)へピストン。天気は良いのですが、ちょっとガスが多く遠くの展望はよくありませんでした。先ほどの茶屋に戻り有馬温泉へ下ります。ちょっと前の水害で通行止めがあったり大きく迂回があったりですがさすがに六甲コース中ポピュラーなコースであり道幅もそこそこ人も多く年の割に快調に飛ばし有馬温泉へ。温泉へ浸かって帰る予定でしたが天下の名湯有馬温泉しかも週末で時間もスタートが遅かったせいで混雑しており(温泉に浸かるのなら、遅くとも3時ごろ到着が必要。今回は4時を回った)バスの時間も良かったのでそのまま宝塚へ抜けて打ち上げを行い終了としました。

関西支部の方々、高齢化が進んでおりあまり大したことはできないと思いますが半期に一回ぐらい何かできればと思っています。

以上



(4)東京支部活動報告(H29.12~H30.7)

東京支部事務局長 秋山 高弘

東京支部の活動は以下の通りです。

【実施済み】

1. 新年会 H30.2.10 (土)

八重洲 かなえ (なんと!) 28名が集まり、楽しく歓談することができました。

【トピックス】

今回は、大谷さん、熊谷さん、木村さんが久しぶりの参加、また幸西さんが長野県から初参加でした。幸西さんは、退職後 ブドウを育て、ワイン作りを目指しておられます。いつか皆で幸西さんのワイナリー(来年の秋にオープン予定)に行けたら良いねと話しました。

2. 初夏の登山 H30.6.9 (土)

扇山(1,138m) 参加13名

9:30 中央線 鳥沢駅集合・10:40 梨の木平―12:30 山頂(昼食) 13:30 出発・16:00 四方津駅―高尾駅(下車 懇親会)

天気が良すぎて富士山に雲がかかり、姿を拝むことができませんでしたが、眺めの良い山頂からの景色を楽しみました。山の中は樹林帯で日差しを避けることができましたが、下山後のロードは逃げ場がなく暑さが堪えませんでした。帰りは、高尾駅まで移動し、皆でのどを潤しました。

【トピックス】

ロードの途中、地元猟友会の方々が、駆除したばかりの鹿と猪を解体している所に出くわし、みなびっくり。恐る恐るカメラを向けました。

【今後の予定】

3. 暑気払い 9月上旬を予定

4. 10月20(土)・21(日) OB 総会

港区赤坂 ホテルアジア会館

9月、10月と皆で協力して、OB総会の準備をします。万全の準備の下、皆様をお迎えしたいと思います。

以上



4. 同期会活動

山口・同期会報告 (5月26・27日)

昭和53年経済卒 秋山 高弘

私たち昭和49年入学組は、還暦同期会をきっかけに毎年集まるようになりました。昨年は京都で町家を借りて懇親会を行いました。今年は久しぶりに山口でホテルを見たいねということになり、懐かしの山口で旧交を温めました。

1. 鳳凰山登山 5.26(土) 参加者4名

板堂峠とニツ堂からの二ルートに分かれて登り、山頂で落ち合いました。登山口へはタクシーで行きましたが、初めて見るダム湖にびっくりするやら、こんな長い距離を錬成で歩いていたのか、などびっくりすることだらけ。登山道は最後の登りが意外にきつかったことや、山頂直下まで樹木が茂っているのにも驚きましたが、40年ぶりに山頂からの景色を堪能しました。下りは、「黄金の馬伝説コース」を通り、中尾に下山してバス停までロード。



2. 懇親会 湯田温泉 KKR山口あさくら 参加者12名

(金子、田村(浩)、田村(伊)、殿村、中村、原口、藤井、牧野、光吉、森、山本、秋山)

湯田温泉の会場に続々集合。18時より懇親会開始。一人ずつ近況報告、昨年もしたはずなのに、この年になると1年で色々あるものですね。突っ込み突っ込まれであっという間に時間が過ぎました。

3. ホテル観賞 一ノ坂川

宴会終了後タクシーで一ノ坂川へ。少し時期が早いのではと心配しましたが、ホテルが思ったより沢山いて安堵しました。幻想的だったなあ。喫茶店ラ・セーヌが立派になって残っているし、惣野旅館も看板は昔通り。なつかしさに浸りました。

4. 道場門前散策・二次会

いつも通っていた道場門前ですが、忘れていたのと、すっかり変わっているのとで、こうだったっけ?とわいわい言いながらホテルまで歩いて帰りました。でもまっすぐ帰るわけがないですね。ホテル近くの居酒屋で二次会の乾杯。湯田温泉の夜は更けていきました。

5. 解散そして来年

翌日は、そろって朝ごはん。(現役時代は何か歌っていたような・・・)
その後、有志で昨夜行けなかった、瑠璃光寺 五重塔を散策。来年は、四国は松山在住の金子君のお世話で、道後温泉にて同期会を行うことになりました。以上



5. 会員エッセイ

1. 小豆島八十八か所霊場歩き遍路 150km 日記

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

桜が咲き遍路に最も適したこの時期に、小豆島八十八か所霊場約 150km を徒歩で巡拝しました。小豆島は瀬戸内海の島々で、淡路島に次ぎ 2 番目に大きな島で、弘法大師空海が故郷の四国・讃岐の国と当時朝廷があった京都との往來の途中に何度も訪れ、修行や祈念を行った地で、全国の霊場中唯一、八十八か所すべてが弘法大師が開いた真言宗の寺院などであるといひます。



【小豆島八十八か所霊場図】

2018年3月25日(日)：快晴・歩約9km。5:15 自宅出発。11:20 神戸港出発、坂出港着 14:20。菅笠、白衣、輪袈裟、金剛杖、さんや袋など遍路姿となり、桜が 1 分咲きの 3 番札所・観音寺に行き、数珠を持ち、合掌、読経の後、納経所で 3 番とともに 1 番、3 番の奥の院、2 番の朱印を頂いた。堂・庵、山岳霊場には納経所がなくて、決められた 28 か所の寺院で朱印を頂くことになっている。1 番を参拝後、18:00 予約していたベイリゾートホテルへ。2 食付 9,180 円。



【観音寺の本堂前で

観音寺の墨書・朱印】

3月26日(月)：快晴・歩約7km。8:15 出発。海岸沿いを進み、4 番、5 番を参拝。竹林がある山道を、6 番・田ノ浦庵へ。遍路道からそれ、高峰秀子主演・木下恵介監督による映画・二十四の瞳で有名となった岬の分教場、さらに二十四の瞳映画村。12:30、10 番。小豆島と言えば、二十四の瞳、オリーブ、そうめんと思っていたが、醤油・佃煮産業が盛んだそうで、醬の郷を歩く。7 番・向庵では初めて遍路姿の人達に出会った。マイクロバス遍路。8 番、桜・ソメイヨシノが大分咲き始め。晴天と約 7kg のリュックサックで、自販機の果汁飲料などをゴクゴクゴクと飲みながら、9 番、11 番、12 番、13 番、14 番参拝。18:20 ひろきや旅館。2 食付 7,236 円。



【二十四の瞳・岬の分教場】

3月27日(火)：快晴・歩約15km。朝食後、旅館の車で 21 番に送ってもらった。9:50 に 20 番。山道となり、11:00 に 18 番・石門洞。本尊は洞窟内、鐘樓の屋根は茅葺。山道では二見岩や、織岳、螺貝岩などを望む。ここで、日本三大渓谷美と言われる寒霞渓を見ようとロープウェイ乗場まで足を延したが、山頂までの眺めが良いとのこと、期待はずれ。13:30、19 番。22 番、23 番の後、草壁港から山道に入り、15:00 に 24 番。25 番の後、竹林が多い山道を進み、大師の御井戸からつるべを下ろし水をくみ上げ、一口飲んでみた。冷たい水が喉を潤す。27 番、26 番を参拝し、17:00 小豆島オリーブユースホテル着。入浴時、ウーン、前日生じた両足のマメがかなり大きくなるとともに、左膝関節が少し赤くなり痛い。2 食付 5,676 円。さすがユースホテル安い。

3月28日(水)：快晴・歩約24km。朝陽に映える海。5:30 朝食。7:15 出発。道に迷い、ようやく 10:00 に 28 番へ。10:40、先ほどの島が目の前に。すっかり濃霧に覆われ幻想的。29 番、30 番。14:00 に 31 番・誓願寺、国指定天然記念物で高さ 6m、根元の周囲 8m にもおよぶ巨大なソテツ。膝関節の痛みと赤みがなくなった。歩くことでかかる負荷に抗して、自然治癒力が増すのだろうか。15:13 に 34 番、桜が満開。車道を山に上がり、32 番。33 番から内陸部に入り、16:50、



【誓願寺の大ソテツ】

同じ敷地内にある国宝の 36 番・釈迦堂、37 番・明王寺を参拝。38 番、39 番、35 番と進んで、国民宿舎小豆島に迎車を頼んだ。2 食付 10,950 円。
3月29日(木)：快晴・歩約27km。8:00 出発。城山桜公園は、二十四の瞳で高峰秀子・大石先生と児童が満開の桜の下で機関車ごっこをしたシーンのロケ地。9:20、40 番・保安寺。山道を 10:40、41 番。岩場道を進み 11:15 に 42 番。前日、明王寺副住職の奥さんが勧めた山中峠への車道に入り、12:35 満開の桜の木の下で、パンなどで昼食。14:00、43 番。45 番を過ぎ、山道を上ると、猪侵入防止柵。小

小豆島霊場会発行の「おへんろ道案内図帳」に書かれた遍路道。これまで何度も猪が餌を探し地面を掘った跡。これも修行なのかと柵の戸を開閉し、南無大師遍照金剛と進む。14:53、44番。千枚棚田は日本の棚田百選に指定されており、その景観に感動。47番から上り、48番、46番へ。17:00に74番。18:00に50番。山道に入り、54番、51番では日が暮れてしまった。土庄港の街並みに入ると、ヘッドランプを付けずに済んだ。19:40 旭屋旅館。入浴し、20:30 夕食。2食付7,020円。



【保安寺の鐘楼門 山中の千枚棚田】

3月30日(金)：快晴・歩約19km。7:50、旅館の車で55番へ。写真を撮ろうとすると、バッテリーが入っていない。電話し充電で忘れたものを持ってきてもらう。山道を歩き、8:30に56番。海岸近くを進み、山に入った所で10:20、59番。11:40、60番・江河窟。本尊は真っ暗な洞窟の中。また、香川県の特徴ある形の屋島がくっきり。13:00に61番。峠を越し、土庄港に帰った後、また山道に入り、14:50、62番と63番。15:40に57番。16:10に65番・光明庵。インドのネール元首相を始め、日本全国10万人の頭髮を使った総刺繍で造られた観音様をお祀りしている一髪観音がある。16:20に53番。さらに、小豆島霊場総本院を参拝。17:41 昨日と同じ旭屋旅館。

3月31日(土)：快晴・歩約13km。朝食後、旅館の車で66番へ。8:00、68番。山道を67番へ。9:08、69番。さらに70番。12:30、明和4年(1767年)の銘が刻まれ、当時内務省社寺局囑託で大学教授だった柴田常恵の見解で神宮寺の鐘という理由により、太平洋戦争下での鐘供出を免れた銅鐘がある71番・滝ノ宮堂。次いで、遍路山道となり石・岩がゴロゴロし始め、行者修験道の表示。地図を見直すと、72番奥の院徒歩巡拝で初めての方は車巡拝路をと書いてある。地図からすると、奥の院はそれほど先でない。岩場で靴はマラソンシューズ。へばり付くようになりながら進む。13:40、岩山に開いた穴を通り、本尊に到達し参拝。住職によると、行者修験道は裏道で、小豆島霊場中、最難関の地とのこと。72番・滝湖寺、73番、75番、76番奥の院、77番を巡拝。さらに山道を通り17:15、76番 **【滝湖寺の奥の院・笠ヶ瀧】**に参った後、バスの通る県道に下り、かつや旅館の迎車。2食付7,344円。



4月1日(日)：午前曇、午後晴・歩約11km。朝食後、旅館の車で番外の藤原寺まで。山に入って78番。県道に出て、10:10に79番・薬師庵。11:00、80番。海岸沿いからの風景を楽しみ、また山に。またも猪侵入防止柵。13:40断崖絶壁に建つ81番・恵門の滝。80番の人が住職に言われ、車でリゾートホテル小豆島アクアへ。しかし、3日以前に予約が必要で、素泊りなら可能。昼食用のパンなどを持っている。素泊り10,600円。



【薬師庵の大師堂 恵門の滝】

4月2日(月)：午前薄曇、午後晴・歩約13km。7:10出発。川沿いに上り、7:30、82番。峠を越し83番。10:05に84番・雲海寺と85番。海岸沿い国道をひたすら歩き、採石場や満開の桜を楽しむ。13:40、86番。山に入り、大坂城石垣石切丁場では八人が犠牲になり、ノミの跡が整然と刻まれた巨大石を見て、15:10に87番。山桜が咲いている。通りがかりの人の話では、今年は山桜が咲いているうちにソメイヨシノが満開とのこと。地球温暖化の影響か。16:15遂に、小豆島八十八か所霊場の最終となる88番・楠霊庵。最後の読経などと納札。迎車でひろきや旅館着。歩き遍路が1人。これまでの人達は巡拝専用バスなどで、歩きの人は初めて。



2年半前に51日間で完全に歩いた約1,200km 四国霊場巡拝の **【84番を仰ぎ見る筆者 88番・南霊庵 墨書・朱印】** 通し打ちと比べ、今回の小豆島霊場は体力の衰えを感じさせられました。小豆島は島とは言え山あり、谷ありで困難も多かったが、道中、島の人達に支えられての満願でした。現在74歳、後何年か残りの人生、悔いのない生活を過ごしたいものです。

2. 定年後夫との距離感、家事分担を試行錯誤

九州支部 昭和60年卒 農学部 池田 徳子

3月に夫は、土、日、祝日そして夜が仕事のスイミングインストラクターを定年退職後、市の嘱託職員になった。休日に、そして夕食時に夫が居る、我が家では異様な光景が、4月から始まった。「普通のおうちみたい。」と子供も慣れない。私はフルタイムの派遣社員。子供2人は社会人になったものの、残る2人はまだ大学4年生と高校1年生、稼がねば！夕方6時過ぎにお互いに仕事から疲れて帰ってくる。家では癒されたい。私も！

初め夫は、早く帰ってきた。風呂を沸かしてビールをプッシュ！「えっ？」「洗濯物を入れて畳んで」、「食器をしまっ、洗って」、「野菜の皮を剥いて」、「ご飯をついで」、「テーブルを拭いて」次々に用事を言うと不機嫌になる。「えっ？」夫の帰宅時間は、どんどん遅くなり、遂には夕食が出来た頃に。「えっ？」残業は、無いのに？めっちゃ腹立つやん！まず一手。「月曜、水曜、金曜は、私が夕食を作るけ、火曜、木曜、土曜は、お願いね。」夫は、烈火の如く怒った。しかし負けてはいられない、こっちも腹立つやん！

火曜日、よっしゃ！早く帰ってきた！ガチャガチャと大きな音をたてて烈火の如く怒りながらも、野菜炒めとサラダ。

木曜日、フッフ！早く帰ってきた！少し不機嫌に「寿司飯を作っとけ」と言い残し買い物にでかけた。手巻き寿司。そうそう！一緒にビールをプッシュ！

土曜日、お互いに休み。不在という、次の一手。外へ。アウトドア派の私は趣味の園芸や畑に忙しい。熱中していたら食べることも忘れる。夫はテレビの前で朝からトドの様に横たわりながらも、洗濯や食器洗いそして、昼食に焼き飯を作ってくれた。フムフム！夕食に豚汁！やったー！私は、とれたてのスナックえんどうやじゃがいもを茹でて添える。夫、「ウマイ！」フッフ！一緒に夕食を済ませ、夫はテレビの前で再びトドに、私はヨガに！

夫は、まだ納得はしていないらしく少し不機嫌です。しかし食材を買う為に私が快くお金を渡すので、お小遣いが増える。その事に関してはまんざらでもないのでは？
“何事もはじめが肝心！” 頑張ります。私は、笑顔と「ありがとう、美味しい。」という言葉は欠かさないことにしている。うまく共存する為に。本当は、私が作った時と言って欲しいのだけど、と思いつつ。まあ、いいか！

こんな日常のチマチマした事やちっぽけな自分を忘れ、ほんとうの(?)自分に戻るワングル。そしてワングルOB会の存在はとてもありがたいです。まだ、時々しか参加できていませんが、今後とも皆様よろしくお願いします。



写真

「日帰り山行 雷山・井原山 2018.4.28」

【上写真 前列：龍、池田、光山 後列：永沼、山本、北原、前原】

【下写真 前列：光山、池田、北原、山本、前原、秋山 後列：龍、永沼】

3. ボランティア活動そして息抜きはビートルズ

山口支部 昭和49年教育卒 石川 忠

定年退職をして7年目になります。スペシャルオリンピックス（SO）というボランティア活動には退職前から参加していて10年目になります。スペシャルオリンピックスとは知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。ケネディ大統領の妹のユニスさんが創設しました。オリンピックと名前があるように4年に一回世界大会があり、来年3月はアブダビ開催です。今年9月には愛知で全国大会があります。4年前の全国大会福岡のとき、SOの国際本部会長のケネディ大統領の甥のティモシー・シュ



【 下関陸上競技場でアスリートと共に 】

ライバーさんから私はサインをもらい握手をしてもらいました。この手がケネディ大統領につながっているのだと感慨にふけりました。SO 下関支部で私は陸上競技を担当しています。月二回の日曜日の午前中に、体操をしたり走ったりしています。ボランティア活動を続けていて一つ気づいたことは、意外とお金がかかることです。毎回の活動時の交通費や弁当代など、そして大会や競技会には寄付募集があり募金箱もあります（SOの運営は寄付で賄われています）。アスリート（SOの競技者）引率時には一時的な実費での立替もあります。私が提供できるのは体と時間ぐらいです。ボランティアはお金持ちがするものでは・・・とつい極端な考えが頭をよぎります。

疲れた頭を癒すのはビートルズです。英語の発音勉強で高校時代に聞き始めてから50年になります。初めは歌詞カードと首っ引きで一緒に歌い、次に歌詞の意味を深読みしたり彼らの伝記や関連本を読み漁ったりしました。今はバンド本来のサウンド（音）を楽しんでいます。就職した頃やっと全部揃えた彼らのLPレコードを、今でも毎日のようにプレーヤーで聞いています。9年前に、リマスターされたCDが発売された



【日本デビュー時のモノラルLPと最近のモノラルCD】

時、同時にモノラル録音盤のCD13枚のボックスセットも出されました。ビートルズとプロデューサーのジョージ・マーティンはモノラルの録音に力を注いでいたということをその時に知りました。イギリスではLPレコード盤はモノラルとステレオの両方で発売され（解散前の2枚は別）、日本では数枚を除きLPはステレオ盤のみの発売でした。それでどうしてもそのモノラルCDボックスが欲しくてたまらなくなりました。しかし数量限定発売で値段も高くCDショップにはなく、このまま入手できないのではと思っていたところ、先日 book・off に本を買いに入った時に何気なくCDコーナーのビートルズの棚に行ったとき、そこに白い小さな箱がありました。飛び上がる喜びというよりも腰が抜けるような安堵感でした。一度も開封されていない新品状態で値段も手頃な価格になっていました。小さな幸せにひたっています。

4. “生命の鍵”の旅

九州支部（昭和41年文理卒） 加藤 征治

先年、「後期高齢」という嫌な名の書類通知を受けて以来、既に早数年を経過し、やがて来春2月で喜寿を迎えることになる。自らは“高貴好齢”と宣言しているが、外野席からは“好鬼交霊”という声もかかる次第となった。我が青春の歳月を振り返る時、「仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬」と万感の思いである。これから先の心身の老化は止めようもなく、そろそろ「終活」の年代である。新たな年の初めには毎回、“如月紳士”^{*}の名で凜として生きていこうと思いつつも、今年も既に貴重な1年の半がぶらぶらと過ぎていく。猛暑とか酷暑とか言われるこの盛夏、何の因果か急遽、地球を歩く旅の思い出・駄文を掲載させていただくこととなった。（^{*}海外の旧友がつけた私の別名）

私の海外デビューは他の人より遅く、40歳代へ入った頃であった。日本と全くあべこべの国、南半球豪州・オーストラリア（首都キャンベラ）でのいきなりの1年間の単身留学生活であった。リンパ学の研究のかたわら、夏と冬の2度、懐の深いロックが続くオーストラリア・アルプス連峰（大陸東部国立公園）の山行きを楽しんだ。ロックといってもクライマーの好きなそびえ立つ岩場ではなく、大小の岩がゴロゴロ果てしなく続く山々である。大陸台地のロックはまさに自然の芸術、モダンアートのようなものもあり、ときには天から降った奇岩・石の鍵のようなものも見られた。（図1、1985元旦）



【図1】

【下写真 上より順に 図2、図3、図4】

さて、古代エジプト（紀元前3000年頃）の遺跡・ピラミッド（図2）が見たくて、昨年ナイル河クルーズの旅に出た。ナイル河と言えば誰もがエジプトの大河を想像するが、上流では川幅はまだそれほど広くなく、砂漠都市アブ・シンベル、アスワンからルクソール周辺の木造船による穏やかな川下りと空路首都カイロ訪問というものであった。ちょうど旅の間考えていたのが、遺跡の柱や壁画によく描かれている不思議な「アンク（Ankh）」“生命の鍵”についてであった（図3中央）。



古代エジプトでは時代や場所によって数え切れないほどの多くの神々が信仰されており、遺跡のお墓や神殿の柱や石壁にはどこにも神々の手に「アンク」が握られている（図4）。「Ankh」という言葉はエジプト語（アラビア語）で生命を意味し、文化的・宗教的シンボルとして用いられ、その鍵形から、生命を支配するいわゆる“生命の鍵”とされている。人間は「アンク」を持つことで、権力や神の祝福を手に入れるとも言われている。



人はこの世に生を受けた瞬間から消滅するまで成長し、人とのつながりという目に見えない絆でお互いに支えあって生きている。生物学的に受精による胚（生命体）誕生の瞬間から器官形成による人間化が進む胎児で、この世に誕生する前から人ひとりひとりが既に固有の“生命の鍵”を与えられ、その後の長くて短いそれぞれの一生を歩むわけである。人はそれぞれ自身の“生命の鍵”をもって神に祈り、天国の扉を開けるのである。その“生命の鍵”を使う日いつなのか、誰も知らされていないし、知ることはできないのである。



なお、「アンク」の形はラテン十字の上部がループ状の楕円形をしており（図5左）、15世紀の占星術に使われた惑星記号・金星

を表すものに似ている。また、雌記号（♀）にも転用されている。ちなみに、雄記号（♂）は火星を指すものとされている。近年、“生命の鍵”「アンク」といえば、ファッションの世界でもスピリチュアルシルバーと呼ばれるペンダントもあり、不幸な出来事から身を守る強いエネルギーをシンボル化したものとして愛用されているようである。

ところで、古代エジプトで使われた文字（記号）は「ヒエログリフ」(Hieroglyph、象刻文字)といって、中世以降多くの人達に関心が持たれ、近世になってその解釈が試みられ、現代では読むことが可能になっている。ファラオの王様の名前(文字)を囲む楕円形の輪郭(ロープの象刻文字)は「カルトウーシュ」(Cartouche)と呼ばれており、もともと“取り囲む”(カートリッジ、cartridge)からきたものといわれている。図5右は現地で注文した私のTシャツ刺繍「カルトウーシュ」(OKATOO、縦4文字の上下は王飾り)である。シャツを受け取った折、旅のガイドブックの象刻文字表でKATOを確認した。



【図5】

さて、話は少し飛ぶが、クルーズが終わり、空路カイロに着いて市内にある世界的人気のエジプト考古学博物館を訪れた。この博物館は数年前に起きたテロ襲撃事件の為、当時は物々しい警備で混雑し、少し不安のまま観覧した。目に留まったのが BC2000 年王像の脚のゲートル風の装具である(図6左)。砂漠の毒ヘビやサソリから脚を守るものの他、むくみ対策でもあったのだろうか。中国の秦始皇帝(BC3 世紀)の兵馬俑の兵士にも似たような装具が見られた(図6右)。ゲートルといえば西洋式の脚絆で、日本陸軍歩兵の行軍の際にも常用されていた。ゲートルで脚を締め付けることによって、下半身の組織に溜まった水分を血管やリンパ管へより早く戻し、むくみ(浮腫)を解消することができる。このことを知ってか知らずか、当時の医学・医療レベルからすれば、経験に基づく生活の知恵であったのであろう。なお、近年では、リンパ浮腫治療・リハビリによる日常生活の動作(ADL)や生活の質(QOL)の改善・向



【図6】

上をめざして、むくんだ四肢に弾性包帯を巻く処置(複合理学療法)がおこなわれている。

ワングル活動のスタイル(自然と装備)は長い年月の経過とともにいろいろ変遷し近代化してきているが、当 YUWV 部の草創期においては、部活動の効率化や体力・健康管理のことなどに思いが及ばなかったことが、今はほろ苦くも懐かしく思い出される。

以上

編集部よりお願い

皆さんの近況報告、山行レポート、同期会活動、雑感などの原稿や、写真を募集します。投稿いただいた原稿や写真は OB 通信に掲載するとともに、HP にも掲載予定です。お気軽にご応募下さい。皆様の投稿をお待ちしています。



【山口県庁 藩庁門】

5. 現役報告

(1) 執行部活動報告

人文学部 3年 ^{みいたいめい}三井大明

現在、本学主将を務めております、人文学部人文学科3年の三井大明と申します。部活動の近況報告をさせていただきます。

今年度は、1年生14名(男4名、女10名)が入部し、皆高い志をもち練習に励んでいます。昨年に引き続き、情報共有・意識共有の徹底や問題点の解決に力をいれ、部員間のつながりを深めることでよりいっそう活性化な部活動を目指していきたくと考えています。

現在、普段のトレーニングや講習会は2年生が主体となって行っていますが、それぞれ先輩として自覚を持って行動するようになり、頼もしい限りです。また今年の新入部員は女子部員が多く、大学から登山を始めた者がほとんどであり、全体的に経験が浅いので、夏合宿に向けてトレーニングだけではなく、積極的に山に登りに行くなどもしています。技術面などで不安があるのは事実ですが、縦走・ピストンの各リーダーを中心にまとまったチーム作りを目指し、夏合宿に挑もうと思います。下記に部員構成・執行体制を記載し、短いようですが、以上で近況報告とさせていただきます。

学年	合計			本学			工学		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	10	14	4	10	14	0	0	0
2年	7	4	11	3	0	3	4	4	8
3年	9	1	10	3	1	4	6	0	6
4年	9	0	9	7	0	7	2	0	2
合計	29	15	44	17	11	28	12	4	16

〈平成30年度本学執行部〉

役職	氏名	学部	学年
主将	三井 大明	人文学部	3年
副将	間地 みなみ	農学部	3年
主務	田村 香輝	教育学部	2年
会計	東 洸風	理学部	2年

〈平成30年度工学部執行部〉

役職	氏名	学部	学年
主将	土井 貴博	工学部	3年
副将	出口 貴大	工学部	3年
主務			
会計	平川 敬也	工学部	2年
渉外			

(2) 春合宿報告

理学部 2年 三和 大地

昨年度の春合宿では、3月5日から3月8日にかけて、屋久島へ行きました。屋久島特有の気候もあって、小雨の日が多く、晴れることはそう多くはありませんでしたが、雨だからこそ見ることの出来る屋久島の雄大さを感じることが出来ました。

■AP

湯田温泉駅から鈍行を使って鹿児島中央駅へと到着した後、徒歩で船の出るターミナルまで移動し、そこから2時間半かけて船で屋久島へ行きました。当日は港の近くのキャンプ場にテントを構え就寝しました。

■1日目

1日目はさっそく本合宿のメインである屋久杉へ行きました。キャンプ場からバスに乗り登山口まで移動しました。やはり世界遺産に登録されていて知名度が高いのでしょうか、登山口や、登山口に向かうバス停には大勢の人が列をなしていました。屋久杉までの片道約5時間の道のりを、大自然の景色を見ながら歩きました。時折ヤクシカも姿を現しました。この日は怪我も日程の遅れもなく、屋久杉を十分に満喫し、キャンプ場に戻って自炊をした後就寝しました。

■2日目

2日目は屋久杉に並んで有名なスポットである白谷雲水峡へ行きました。朝の準備が遅れてしまいましたが、無事にバスで時間通りに白谷雲水峡に到着することが出来ました。

白谷雲水峡に流れる川に沿って歩いているので、道中の気温は涼しく歩きやすかったです。

ジブリ映画のもののけ姫の舞台にもなった樹木、水、苔の生み出す景色に圧倒されながら進みました。下山後はバスでキャンプ場へ帰り、3日目に備えました。

■3日目

3日目はカヤックをしました。屋久島には大きな川がいくつか流れていて、その川を使って aqua style の皆様に指導してもらいながらカヌーを楽しみました。その後はテントをたたみキャンプ地を離れ、フェリーでターミナルまで帰り、そこで解散しました。

○まとめ

春合宿は、1年生だけで計画を立て、資料を作る初めてのイベントでした。先頭も1年生で、途中ペースが速すぎたり、PT間の意思疎通がとれてなかったりと、課題も多く見つかりましたが、それ以上に、みんなが怪我なく帰れたこと、何とか計画通りに春合宿を終えることができたこととその経験は、今後2年生になり1年生を引っ張っていく上での自信とやる気につながったと思います。 以上

（3）平成30年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画

人文学部 3年 三井 大明

【新入生歓迎フェスティバル】

今年の新入生歓迎フェスティバルは4月8日(日)に行われました。天候にも恵まれ、多くの新入生がブースを訪れてくれました。2年生が中心となってピラ配りや説明などを行い、ワンダーフォーゲル部を広く周知させることに成功したと思います。

【県内合同ワンデリング】

今年は、主催の県立大学側が多忙なこともあり、5月3日(木)に日帰りでしたが、小野田市の花の海でイチゴ狩りを行いました。日帰りであったため参加者も多く、現役の部員相互や県立大学、水産大学との親睦もさらに深めることができたと思います。

【海合宿】

今年も8月9日から10日にかけて、OBの方が所有するハウスをお借りして海合宿を行わせていただく予定です。本学生、工学部生が参加するので大規模なものになりますが、普段の山での活動はひとまず忘れて、たまに来る海を各々が存分に楽しもうと思います。

【夏合宿】

今年も北アルプスにて夏合宿を行います。縦走では槍ヶ岳、ピストンでは立山を目的地としています。ルートは以下の通りです。

(1日目)松本駅→常念岳→常念小屋

(2日目)常念小屋→大天荘→大天井岳→大天井ヒュッテ→ヒュッテ西岳

(3日目)ヒュッテ西岳→ヒュッテ大槍→槍ヶ岳山荘→槍ヶ岳→槍ヶ岳山荘

(4日目)槍ヶ岳山荘→天狗原分岐→一ノ俣→上高地

【追い出しコンパ】

今年の追い出しコンパでは、9名(うち工学部2名)の先輩方を送り出させていただきます。先輩方には1年生の頃からお世話になっているので寂しい気持ちもありますが、先輩方の新たなスタートを祝い、盛大に送り出させていただきます。

【春合宿】

今年度の春合宿に関しまして、現時点では全くの未定ですが、1年生に中心となって計画を進めてもらおうと思います。上回生はそれをしっかりとサポートして、実りのある春合宿を行うことができればと思っています。
以上

6. 事務局長挨拶

経済学部 4年 岡田 陽介

今年度、現役報告を編集させていただきました経済学部4年の岡田陽介と申します。今年度より事務局長も担当させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度ワンダーフォーゲル部には男子3名・女子10名の計13名が入部しました。前年に比べ大きく男女比が変わり、部内に新しい風が吹きつつあります。

最近、新部長・その他役員のもと、部員一同各種イベントの企画や合宿の計画に励んでいます。時間を重ねるごとに積極性が増している後輩たちに私も負けてはいられないと、刺激を受けています。私は公務員試験のためあまり練習に顔を出してはいませんが、こういった成長を見守っていきたいと考えています。

この度、現役報告を編集させていただき、部の発展を感じるとともに、活動を温かく見守って下さったOBの方々のご厚意が改めて身に沁みました。これからもご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、今後とも部の発展のため尽力したい所存であります。温かいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今回、こういったご報告の場を設けていただいたOB会の皆様、そして編集作業に携わっていただいた皆様に、深く感謝申し上げます。
以上

7. OBの皆さまへのお願い

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

OB会幹事 三國 彰

(工・昭和55年卒)

事務局長 岡田 陽介

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会

申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

- ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2016年までに会員資格を喪失された皆さま
鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票
新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

- イ 会費有効年が2017年の皆さま
会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050
加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部
個人会員年会費 2,000円 (夫婦会員年会費 3,000円)

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いします。新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

- (2) OB通信の送付について
OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

- (3) OB通信への寄稿について
事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せ下さい。
8月発行分 7月中旬
12月発行分 11月中旬

- (4) 転居先連絡のお願いについて
OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。
転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

【鳳翔会のホームページを是非ご覧下さい】

<http://houben-kai.sakura.ne.jp/>

上記がアドレスです。残念ながら、ヤフーで検索しても出てきません。ここには、OB通信はもとより、創刊号からの過去の部誌、会員の近況などが掲載されています。是非、ご覧いただいて、何らかの書き込みをしていただければ、と思います。



8. 本部・支部役員連絡先

・OB会会長

古谷 真之助（経・昭和52年卒）

注・ 以下役員連絡先については個人情報保護の観点から、すべて削除しています。お問い合わせ等は、上記連絡先までお願い致します。

・OB会副会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）

八谷 孝徳（文・昭和54年卒 会計兼務）

・OB会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒）

石川 忠（教・昭和49年卒）

三國 彰（工・昭和55年卒）

坂田 信一（理・昭和57年卒）

徳田 宏子（教・昭和57年卒）

・OB会事務局長

岡田 陽介（経・4回生）

・会計監査

平野 展康（経・昭和59年卒）

齊藤 昌彦（農・昭和60年卒）

（東京支部）

支部長 城戸 賢嗣（経済・昭和49年卒）

副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒）

事務局長 秋山 高弘（経済・昭和53年卒）

（関西支部）

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

(山口支部)

支部長 古谷 眞之助 (経・昭和52年卒)

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経・昭和39年卒)

支部長 龍 純二 (文理・昭和50年卒)

事務局長 天野 雅紀 (経・昭和61年卒)



【 八が岳 しらび小屋 】